



東北ヘルプ Touhoku HELP



東北ヘルプのモデルチェンジについて	P2
これまでのプロジェクト	P3
蒔かれる種	P4
望まれる宗教者の姿	P6
いわき食品放射能計測所「いのり」・現状と浪江ピースの会	P9
若松会「夢は温泉旅行」	P10
青森リング狩りツアー報告	P12
日韓教会交流及び宣教協力増進のための韓国訪問旅行	P14
韓国教会を訪問して	P16
11月相馬・南相馬震災支援プロジェクト報告	P17
「東北ヘルプ」関連者書籍の紹介	P18
「協賛会員・献金」ご芳名	P19

No.3

News Letter
Summer/2013

東北ヘルプのモデルチェンジについて

三年目を迎えた東北ヘルプは、モデルチェンジを進めてまいりました。そのテーマは、「息長く」です。

まず、大きな変更は、NPO法人を設立することでした。この作業は6月に認可を受けられるところまで参りました。このことによって、東北ヘルプが「息長く」神様のご用に役立てばと、祈りを集めているところです。

そして、「息長く」経費を節減するために、事務所の位置を変えました。これまでの事務所を引き払い、隣の日本国際飢餓対策機構のお部屋と相部屋となりました。日本国際飢餓対策機構の皆様のご理解とご協力で心から感謝する次第です。

この移転によって、住所とFAX番号とが以下の通り変わりましたので、どうぞ、御確認下さい。



ライア演奏者のジョン・ビリングさん



左がクラウディア山本宣教師

私たちは、この移転作業終了を確認した後、4月18日18時から、エマオにて記念会を行いました。

記念会は二部構成でした。1時間の報告が、第一部でした。第二部は、記念礼拝でした。礼拝は、「第三年目を開始する東北ヘルプ記念礼拝」としました。世界的なライア演奏者であるジョン・ビリングさんと、東北ヘルプの顧問となってくださったクラウディア山本宣教師のご奉仕を頂きました。

ジョンさんは、前奏を以て心を整えてくださいました。その演奏は、「これまでの出来事を走馬灯のように思い出させる」力をもったものでした。クラウディア宣教師は、まったく新しい式文を作ってくださいました。更に多くの力をお借りし、式

文は、日本語・韓国語・英語で完成されました。

東北ヘルプは、世界中の教会の働きが集まった奇跡です。その輝きを表す式文によって、礼拝は3年目を豊かに祝福するものとなりました。

その式文は、ホームページからダウンロードできますので、どうぞ、ご覧ください。

三年目を迎え、被災地は風化におびえています。また、放射能禍の不安におびえています。私たちは福音を託されたキリスト教の団体です。私たちにできることがあると信じています。皆様の祈りを合わせて頂くために、ここにニュースレターの第三号をお送りいたします次第です。

2013年5月17日
事務局長 川上直哉 記

新住所

宮城県仙台市青葉区錦町1-13-6 エマオ2F E・TEL/FAX：022-263-0520

これまでのプロジェクト

「ハートニット・プロジェクト」

「宮城県南三陸クリスチャンセンター支援事業」

「外国人被災者支援プロジェクト」（プロジェクト数：5）

「現地状況調査活動」「シンポジウム開催」「原子力発電所事故に伴う東京電力への賠償請求支援」「外国人被災者支援センター設置」「被災地居住外国人へのアンケート調査・支援活動」

「食品放射能計測プロジェクト」（年間予算37,458,250円／プロジェクト数：3）

「食品放射能計測所の設立」「計測における障害の除去」「他の計測所との連携構築」

「高放射線量地域在住の親子を対象とした短期保養プロジェクト」

「スピリチュアル・ケア」（プロジェクト数：5）

「心の相談室」設立：仏教者・神道者・キリスト者が参加数するコンソーシアム（「心の相談室」）を医療者・学者と共に作りだした。「出張傾聴喫茶（Cafe de Monk）」「電話相談実施」「ラジオ番組制作放送」「臨床宗教師養成のための寄附講座開設プロジェクト」

その他支援プロジェクト

「若松会支援事業」「相田みつを美術館長講演会」「廉価な弁当支援」「お正月弁当支援」「教育事業」「内職支援」「生け花支援」「大工道具配付」「マッサージ・カウンセリング事業」「お茶会」「新垣勉コンサート」「餅つき大会」「漁師用ライフジャケット物資支援」「ボランティアスタッフ研修会」「漁業復興のためのファンドレージング」「赤い羽根中央募金会からのファンドレージング」「森祐理さん慰問コンサートと玄米のおかゆの炊き出し」「のみの市」「実務者会議」「岩手教会ネットワーク・温泉プロジェクト」「避難所バイオリンコンサート」「避難所集会室へのパソコン提供事業」「サンピアフェスティバル」「仮設住宅自治会支援」「ライフワークサポート・響 支援事業」「七郷中央公園仮設住宅自治会 支援事業」「仙台YWCA こころの杜 温泉ツアー」「石巻エアリア キリスト教系ボランティア団体活動報告&情報交換会」「NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク」「大船渡宮田仮設住宅自治体支援」「どんぶく支援」「聴き酒プロジェクト」「やまもと復興まつり支援」「第一回東日本大震災復興支援リトルリーグ野球大会」「縁台納入」「湯たんぼ支援プロジェクト」：NPO法人シンフォニーより湯たんぼの提供があり、仮設住宅への配布を行った。「写真洗浄プロジェクト」「石巻仮設住宅支援」「東松島市内仮設住宅への支援事業」「漁業者支援」「コミュニティ再生イベント」「夏期キャンプ」「卸町五丁目仮設住宅自治会支援 コーヒー焙煎喫茶」「記念撮影プロジェクト」「ファックス設置」「浪江ピースの会支援」「やまちゃんサービス支援」「相馬・南相馬仮設支援」福島県キリスト教連絡会主催「福島の震災を語る会」支援 アジア教会協議会主催「Consultation on Ecology, Economy and Accountability "Promoting Ecological Justice Asian Churches' Response"」参加 「原子力に関する宗教者国際会議」参加

蒔かれる種



新築された泉聖書バプテスト教会（仙台市泉区）
（費用の一部を義捐金から支援させていただきました）

震災から2年。新緑がまぶしい季節になりましたが、3.11の記憶は被災者の心深く凍りついたままです。「いつになったら」仮設住宅では、将来に対する不安を口にしながら、今日一日を生きるため懸命にもがいている人々の姿があります。

そうした人々への支援では、緊急時の物的支援や、傷ついた人々のためのメンタルケアの外に、確かな確信による霊的なケアが必要です。

何故なら、被災した多くの方々は、今まで人生で築いてきたものを一瞬にして失ってしまっているからです。その喪失感を完全に埋めるには、その人自身の再生が必要であり、そこに教会の果す役割があると考えます。

— 教会直接支援の働き —



新礼拝堂

東北ヘルプでは当初から、教会再建のために捧げられた義捐金を、他の支援活動をする目的で捧げられた義捐金と分けて管理運営をしてきました。それにケリュグマ部門と名称をつけたのは、義捐金を捧げてくだ

さる方々の思いを大切にするためでした。

教会支援を指定された義捐金には、教会が再建され、再び福音が力強く語られることの祈りと願いが込められていると受けとめました。

このような思いが共有され、これまで教派を越えて国内外の個人及び教会、そして諸団体から多くの義捐金が寄せられましたことを深く御礼申し上げます。

義捐金委員会

地震と津波によって教会が受けた被害は広範囲に渡っていて、被害の程度も千差万別でした。そうした中で義捐金委員会では、被害の大きさだけでなく、教団などの援助によっては復旧が難しい教会を優先的に援助させていただきます。

手続きとして、申請、調査、報告があり、そのためこれまで26回の義捐金委員会を開いてきています。教会再建の必要からすれば、東北ヘルプからの見舞い金や援助金はほんの一部に過ぎませんが、そこに加えさせていただくことの中に、大きな恵みを覚えています。

震災直後には再建が極めて困難のように思っていた教会が再建されている様子を見ると、これが主の業であることを思われるのです。なお、地震と津波による被災教会援助のための申請は、現在は終了しております。



3月27日に行われた義捐金委員会の様子

原発事故牧会支援

ケリュグマ部門の義捐金は、被災教会援助の他に、原発被害教会のための牧会支援と、教会ネットワークによる民生支援のために用いられています。

原発事故による被災者支援は複雑で、現地の牧師は今も本当にご苦労されています。この先何年も同じ状況が続くでしょうし、あるいはもっと事態が深刻になることが懸念されています。

東北ヘルプでは、そうした働きの一助になればとの思いで、これまで原発事故牧会支援として申請をしていた教会に、支援させていただいています。

先の教会修復のための義捐金申請は東北6県に限らせていただきましたが、この原発事故申請においては地域を限定しておりません。

実はこれも申請期限は既に過ぎているのですが、今後の展開のこともあり、ケースに応じて申請のあったものを検討させていただいています。

教会ネットワーク支援

教会ネットワークによる支援は、青森、岩手、宮城、福島でそれぞれに立ち上がったネットワークを経済的にサイドから支援する働きをしてきました。

具体的には、福島キリスト教連絡会による福島子どもプロジェクトを青森とつなぐことや、教会ネットワークによる仮設住宅支援などがあります。

このような働きは、今後も続けていくことが必要とされていますが、東北ヘルプでは既に多くの義捐金を支出していて、長期の運用が危ぶまれている現状があります。

また、震災当時から比べると、義捐金を寄せてくださる件数が激減しています。そうした中で、被災者に寄り添い、人々に仕えることの中で福音をあかししていきたいと考えています。

数は少なくなりましたが、この働きのため、今も励まし支援をくださる方がいてくださることに、心熱くされています。

どうか今後も主の御心にかなって業が為されますよう、お祈りください。

2013年3月12日

義捐金委員会・委員長
秋山善久

涙と共に種を蒔く人は、
喜びの歌と共に刈り入れる
(詩127篇5節)



大規模半壊指定を受けた旧会堂



取り壊し中の旧会堂

望まれる 宗教者の姿

「あまり家族の前では、こういう話はできないんです」

まもなく東日本大震災より二年を迎えようとする二月、晴れに近いような曇り空なのに肌寒い昼下がりに、雄勝出身の年配女性がこのような前置きで話を始められました。津波で多くの家族や親戚が被害に遭い、尊いいのちが失われた中、一つの家庭で対面できた方と未だ行方不明の方がいらっしゃる状況では、それぞれの家族に配慮して、言葉を慎まないといけない場面が発生してくるとのことです。そういう方でもここなら話をしても良いかなあと考えて

いるのが、お坊さんの移動傾聴喫茶、カフェ・デ・モンク (Café de Monk) であります。もちろん、宗教的な相談ばかりに依拠することを強調されているわけではなく、僧侶を中心とした宗教者が運営している以外は、美味しいケーキと飲み物が用意された一般的な「お茶っこ」と何ら変わりありません。

この日は開成ささえあい拠点センターで催されましたが、前日、前々日のポスティング (カフェのご案内を各仮設住宅にお知らせすること) のおかげで、60人以上の住人さん達がお越しになりました。いつもながら、喫茶のマスターである金田諦應



筆者：森田敬史
元 東北ヘルプ諸宗教間連携担当職員

師 (曹洞宗) のきめ細かい配慮と、どのようにすればその会が充実したものになるのかと常に検討し陰ながら実働される行動力には敬服致します。

実は、先の女性とは私自身、初対面ではなく、何度かのお出会でようやく重い口を開いて下さったというのが実際であります。それほど口にするのもお辛いという感じだったので、そのような辛いことを話すためには、この人なら大丈夫だという信頼関係構築も必要であったのでしょうか。この日の会場がある開成団地では、他の集会所でも催しておられるため、何度か顔を合わせるといのはそんなに珍しいことではなく、場の雰囲気であったりそこでお手伝いをする宗教者のキャラクターであったりが見えやすくなってきているのでしょう。

いつも仏教者やキリスト教者などの宗教者が多数協力しているカフェ・デ・モンクではありますが、この度のカフェ・デ・モンクは、いつも以上に多くの宗教者が参加しておりました。実は、今回は東北大学大学院文学研究科実践宗教学寄附講座と「心の相談室」が共催で実施されている臨床宗教師研修の一プログラムで、研修受講者が12名含まれていたからです。この研修については、研修案内の中に、次のように表現されております。



2月20日に石巻市開成仮設住宅
カフェ・デ・モンクの様子

「臨床宗教師」とは、公共的な役割を果たす「宗教的ケア」の専門家であり、臨床宗教師研修は、宗教者としての全存在をかけて人々の苦悩や悲嘆に向き合い、そこから感じ取られるケア対象者の宗教性を尊重し、公共空間で実践可能な「宗教的ケア」を学ぶことを目的とします。そのために、①「傾聴」と「スピリチュアルケア」の能力向上、②「宗教間対話」「宗教協力」の能力向上、③宗教者以外の諸機関との連携方法を学ぶ、④幅広い「宗教的ケア」の提供方法を学ぶ、の四点を習得することを目指します。（引用終わり）

同講座の設立趣旨として、実践宗教学寄附講座の公式サイト（<http://www.sal.tohoku.ac.jp/p-religion/top.html>）には、以下のように表記されています。

実践宗教学寄附講座は、2011年3月の東日本大震災以来、被災者の心のケアのために地元の宗教者、医療者、研究者が連携して行なってきた「心の相談室」の活動を踏まえて設立されたものです。

今回、東北の被災地では、宗教者による支援活動が活発に行われました。それぞれの宗教の立場をこえて連携し、支援活動が行われてきたことが一つの要因であると考えられます。その上で、さまざまな信仰を持つ人々の宗教的ニーズに適切にこたえることのできる人材が必要なのではないかという洞察が生まれました。この講座は、そのような専門職（仮に「臨床宗教師」と呼んでいます）の育成を行うために、地元の宗教界などの支援を受けて設立されました。

講座の設置期限はさしあたり3年間で、基礎研究を行ないながら研修プログラムを作成し、「臨床宗教師」の育成を目指しています。（引用終わり）

東北大学に開講されたのは、活動母体である「心の相談室」が宗教的中立性を確保するため、事務局を東

北大学大学院文学研究科の宗教学研究室に置かれた経緯があるからです。もちろん、国立大学にこのような講座が設置されたのは新しい試みであります。その講座を、特定の宗教に偏らない宗教者はもちろんのこと、宗教学者、ご逝去された岡部健ドクターのような医療者など何層もの専門職が運営に関わるという連携により支えられているわけでありませう。このような布陣から、宗教者による様々な活動に対する意見、特に布教のような分かりやすい形で認知されやすく、また警戒されやすい状況から脱することができるのではないかと考えられております。「心の相談室」は、もともと宮城県宗教法

いる最中でしょうが、昨年度一年間で二回の研修が実施され、合計24名の研修受講者が修了証を手に入れました。その24人の宗教者たちがそれぞれの現場に戻られ研鑽を積んでいけると、公共空間で活動する宗教者のネットワークがどんどん広がっていくのではないのでしょうか。震災から一年が経過した2012年は、その礎となり得るであろう、まさに「臨床宗教師元年」と呼ぶにふさわしい一年になったのではないのでしょうか。岡部ドクターが掲げられた“医療と宗教”の連携を深めていくのに大きな契機となった一年となりました。

私自身は、ちょうど震災から一年後の2012年3月11日にご縁を頂き、



人連絡協議会の事業として、仙台市営葛岡斎場において震災犠牲者（身元不明者を含める）の月例合同慰霊祭（お弔い）を執り行ったことをきっかけにして発足しました。この葛岡斎場において、読経ボランティアと並行して相談窓口を開設して常時様々な教団の宗教者がその場に「居る」という場を作り出しました。その後、宗教界の各団体から寄附金が寄せられ、自分の教団にその身を留めない公共性が担保された臨床宗教師を養成しようと、東北大学に働きかけられ開設されたのが、実践宗教学寄附講座というわけです。

このニュースレターをお読み頂く頃には、第三回の研修が実施されて

前述した仙台市営葛岡斎場における合同慰霊祭（お弔い）に司式としてお勤めさせて頂きました。そのご縁を繋げて下さったのが、同日、私の脇にてサポートして下さった東北大学の谷山洋三准教授でありました。その参列者の中に、壮大な構想をこれほどまでに現実のものとして実現された岡部ドクターの姿がありました。個人的には、それほど深く関わることが叶いませんでしたが、初対面の私に対して、ご自身の宗教者に対する考えを惜しみなく披露されていたのが、今でも鮮明に思い出されます。医療者が宗教者に対して、宗教者にしかできないことを望まれている場面に遭遇するのは、以前病院

に勤務していた際に、ご縁を頂いたドクターに次いで二度目の体験でありました。わが国の医療界では希有な存在かもしれませんが、誰の視点に立って医療を進めていこうとするかを考えるのであれば、すごく心強い信頼の置ける医療者ではないかと感じています。

それからちょうど一年後の2013年3月11日も機会を頂き、お吊いの参列者としてお勤め致しましたが、そこには岡部ドクターはいらっしゃいませんでした。これも時の流れを感じる一つのきっかけかなと回想致します。仏教者として思うところは、この世のあらゆるものは生じたり無くなったりすることで、姿や形、本質的な要素まで変化し、永遠に変わらないものはないという考え方である“諸行無常”という言葉であります。それぞれが主観的に感じる“とき”の流れの中で、我々は“いのち”を授かっているわけです。それぞれの変化に一喜一憂しながらも日々の生活に身を置いていることなるのでしょうか。そこで思うことは、変わるものもあれば、変わらないものもある、いやむしろ変えてはいけなれないものがあると表現するのが良いかもしれません。それが、刻一刻と時が流れている中で、細々とでも継続させていくべき宗教者としてのスタンス、特に東北三県への関わりではないでしょうか。僅かばかりでしたが、仮設の住人さんと関わりをもたせて頂く中で、私自身が感じたことであります。何より丸二年を過ぎて、被災者支援が終わったようにすら感じてしまう現状の中で、長期的に必要とされ、声高に叫ばれても良いはずの“こころ”に関する諸問題に対して、細くても継続した形で関わることを求められております。そのような状況において、東北大学で宗教者の育成が継続されることは、本当に大切にすべき活動であると思われま。

そのような不思議な多くのご縁を頂き、私自身は2012年4月に東北大学大学院にて宗教学を学びながら、東北ヘルプ（仙台キリスト教連合被災支援ネットワーク）のスタッフとして『諸宗教間連携担当』というお役目を頂くことで、前述した様々な活動のほんの一部を陰ながら応援させて頂きました。そのような立場であったため、とても多くの繋がりを頂いたことは、至極大きな財産になったと考えています。一年間という短い期間ではありましたが、そこで経験させて頂いたことは本当に意義深いものでありまして、この場を借りて、東北ヘルプ・事務局長の川上直哉先



2月20日・石巻市 統禅寺で行われた臨床宗教師研修の講義風景

生をはじめとする諸先生方に深く感謝を申し上げる次第であります。とりわけ仏教者である私自身が、大きな括りでキリスト教連合という組織に属していることがまさしく公共空間で活動する宗教者を経験させて頂いているのではないかと、光栄に思ったことであります。貴重な経験を通して、私なりに考えるところは、宗教者であっても一人の人間として、人と関わること自体は特に垣根がないということでした。目の前で苦しんでおられる人がいれば、寄り添う心を持ち合わせているのは、どの宗教というものに限ったことではないでしょう。それを実感できたことは、宗教者としての自分を振り返る上で、何よりの収穫であり今後の財産になったと思います。それは、宗教的儀礼

に関しても感じるところでありました。東北ヘルプのスタッフとして参加した朝礼の際に、讃美歌のやわらかな雰囲気が始まる一日は、それまでの仏教者として勤務していた病棟での読経が始まる一日とはまた違う新鮮な始まりでした。それでも特に違和感を覚えることなく、心を落ち着かせる自分自身にとって大切なひとときであったことを思い出します。そして、スタッフとして勤める最終日に、東北ヘルプの朝礼を担当する機会を与えて頂きました。不思議と抵抗なく、それでも一言お断りをして、日常儀礼として読誦しておりました般若心経をお唱え致しました。そこで、それぞれ媒体や作法のスタイルが違っていても、そこに“在る”宗教的な“こころ”は同じなんだという確信を得ました。

これまで雑駁に述べてきました活動は、ある意味で、宗教界において新しいムーブメントとして注目されていますが、一方で東日本大震災を契機として、もともと潜在的にあった社会的ニーズが単に顕在化したに過ぎない諸事象の一つ

ではないかと冷やかに捉える見方もあります。しかし震災後に、被災地において宗教者の存在を切望している話を伺うことが多く、それを受けて、様々な教団の多くの宗教者がボランティアとして“現場”に入られています。ここにきて、宗教者でなければできないことが注目され、改めてその存在意義を見直す流れが作り出されているのは、宗教界にとって大きな転機ではないでしょうか。祈りや読経などの宗教的儀礼や、数珠やロザリオなどの宗教的資源はもろんのこと、宗教者自身の存在がそれだけで救いになるという、まさに宗教者の真骨頂というべき尊い役割を担うべく、それぞれの働きが拡充することを一宗教者として自戒の念を込めて望みます。

いわき食品放射能計測所「いのり」 現状と浪江ピースの会

食品放射能計測所運営委員 秋山 胖^{ゆたか}
2013年3月14日

いわき食品放射能計測所「いのり」（以後いわき計測所と略記）は2012年5月12日に開所しました。所長は日本同盟キリスト教団^{なごろ}勿来キリスト福音教会の住吉英治牧師です。

筆者は、2012年6月4日、仙台といわきの食品放射能計測所運営委員会顧問となり、同7月17日にいわき市に転居し、さらに18日いわき市民となりました。それを機に顧問から運営委員の一員となり、あわせていわき計測所所長補佐となり現在に至っています。

FRMの間（Food Radiation Measuring Space）にはベルトールド社Nalyr線スペクトルメータLB2045、2機が設置されており、仙台で訓練を受けた計測員、鴨陽子さんが計測業務に携わっています。計測室スペースには2.5m×2.5mの完全独立したCPCの間（Clinical Pastral Care Spaceカウンセリング・ルーム）と2.5m×6mのIPSの間（Intentional Pear Suort=受付、待合室、子供の遊び場）があります。

業務開始以来、生産者から持ち込まれた米、野菜、果物、蜂蜜などを計測してきました。また消費者からは、自家菜園の作物、果実、山野で採取してきた山菜、茸、釣った魚、店で購入した物、友人、知人から贈



支援物資を仕分ける筆者（右）

られた米、野菜、さらに水、尿の計測をしてきました。筆者は計測所周辺で、夏ミカン、カリン、カボチャ、ネギ、栗、イチジク等をいただいて持ち込み続けています。

いわき地域の特徴なのか、ホームページを通しての依頼は稀で、計測所運営委員の牧師さん方の信徒さんへの広報活動、筆者による計測所周辺200軒へのチラシ配布、生産者相互の口コミを通じて徐々に知られてきたのが現状です。

上記計測所関係スペースとは別に、パーティションで仕切られた6.5m×10mの多目的ホールがあります。いすを並べて50人は楽に座れるスペースです。

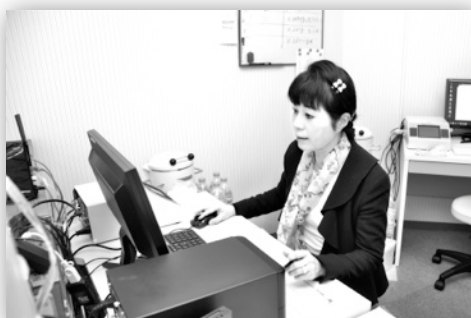
そのスペースを月～金曜日10時～16時、双葉郡浪江町からいわき市内に避難してこられ、借り上げ住宅で生活しておられる方々が利用してくだ

さっています。2012年9月に「浪江ピースの会」として発足し、ロゴマークも出来ています。

リーダーの菅野美智子さんが、東京のある牧師さんからご紹介をいただいて住吉牧師をお訪ねし、依頼した経緯がありました。

火・金曜日は10人近くが集まります。他の曜日は4～5人程度です。

仮設住宅居住者には現在も支援物資や情報が届きます。集会所もあります。が、借り上げ居住者には支援物資や情報が届くことは稀です。だからこそ、借り上げ住宅居住者にと



鴨陽子計測員



多目的ホールでの茶話会

って集い、寄り合えるスペースが大事なのです。住吉牧師は「信州野菜プロジェクト」と「浪江ピースの会」を繋げ、時々野菜が届けられます。筆者は広い人脈を駆使して大分県のカボス、山形県の果物・野菜、北海道の野菜を届けていただくネットワークを構築しました。東京、神奈川の友人達からは時々衣類・雑貨が届きます。親しい教え子が「結婚10周年記念に」と5万円をくださいました。浪江ピースの会には看護師が2人おり血圧計・聴診器・体温計等を購しみなさんの血圧等を測り浪江ピースの会会員の健康管理に役立てています。医学関係出版社の友人からは医学専門書のご寄贈をいただきました。春になって暖かくなり人の来訪も増えてき

ました。3月12日（火）には、筆者のYMCAキャンプ仲間3人が訪れ、キーボードを演奏しつつ「懐メロを歌う会」と「抹茶を楽しむ会」を催してくださいました。4月13日（土）に白水のぞみ保育園（園長・理事長、常磐教会明石義信牧師）で開催される花見と抹茶を楽しむ会には、東京・神奈川から6人が来てくださって抹茶を振る舞ってくださることになっています。

浪江ピースの会の活動の大事な柱の1つは、ミシンを駆使しご寄贈いただいた大量の布を用いてカフェ・エプロン・通帳入れ・ケース・布製バッグ等を制作し、ロゴマークを縫い付けて全国の支援者をお願いして機会あるごとに販売し、浪江のこと

を広く知っていただく活動。自立に向けての活動に取り組んでいます。手製石けん、折り紙での爪楊枝入れも創っています。近々岩手・三陸から始まった「ハートニットプロジェクト」にご協力する準備を進めています。感謝を持って！



「浪江ピースの会」制作のエプロンとロゴマーク

若松会「夢は温泉旅行」

民間借り上げ仮設住宅で作られた自治会

2013年2月1日
広報係 戸枝正輝 記

仙台市では国の指針を受け、被災した人達に対し避難所から出て安定した生活をするまでの間に、「応急仮設住宅」と「民間借り上げ住宅」を提供しました。

「応急仮設住宅」は市の公園や空き地を利用しプレハブ形式で建てら

れており合計20カ所、約2,000世帯分が建設されました。それまで海岸地域で2世代3世代で一緒に広い戸建てに住んでいた人達からは「せまい、窮屈、使いづらい」など、不満の声も聞かれることがありましたが、それぞれの仮設住宅には集会所

が設けられ、市の臨時職員が配置されています。自治会も立ち上がりコミュニティ形成を担っています。その場所は公になっており、地域の差があるもののボランティア支援が入り、物資やイベント、情報も豊富に提供されてきました。その様子は多くのメディアに取り上げられ広く知ることができます。

一方、「民間借り上げ住宅（みなし仮設）」は2011年4月30日に厚労省の通知を県が受け、賃貸住宅を応急仮設住宅として一定の家賃補助を得て居住しています。仮設住宅の建築の見通しも定まらない時期に早く避難所から出るため、多くの人実際に物件も見ず間取り図だけで契約をしたといいます。慣れない場所で新たなコミュニティ作りも難しく、自立への焦りと先の見えない暮らしへの不安を抱いての始まりでした。

その数は約8,000世帯にのぼり市内の各地に点在しており、支援する側



お話を聞いた早坂さん（左）と浜口さん（右）

としても糸口が見いだせない状態でした。

若松会はそんな「みなし仮設」在住の方々の集まりです。'11年の9月に設立され主に情報収集や茶話会、学習支援やお互いを支える活動をしています。

そこでお世話係をしている副会長の早坂さんにお話を伺いました。津波で家が流され大切にしていたものをすべて失いましたが、幸い家族は全員無事でした。避難所から出て引っ越した当時は何もなく、支援物資を得るために区役所に行き掛け合いましたが、援助はなに一つ受けることが出来ませんでした。全国から寄せられた支援物資は避難所や仮設住宅へ送られてきましたので、実際にそこに登録している人しか受け取れないシステムでした。後からそれを知った早坂さんは、まだ避難所にいる知人を訪ね歩き山と積まれている支援物資を見て「少し分けてくれないか」と頼みましたが、みんな断られたそうです。テレビで「仮設住宅へ支援物資が来ました、炊き出しが行われました」というニュースを見ると「羨ましくて羨ましくてしょうがなかった」と言います。「絆なんて感じない、きれい事よ」と当時を振り返ります。同じ境遇にある知人



小枝ちゃん（1本¥300）



小枝ちゃん制作風景

達とは「自分たちが支援を受けられないのはおかしい不公平よ」と話し合っていました。もしかしてこのまま忘れ去られ、これから十分な支えもなく生活していかなければいけないのかと不安を感じておりました。そして「何かしなければ」との思いがあったそうです。

夏頃にやっと東京にある子供育成支援協会とつながり、支援物資を得ることができました。はじめは3家族で分け合っていました自分たちだけではなく他にも同じような人がいると、伝をたどって声かけをし仲間を増やしていったそうです。「支援を受けやすくするために団体を作ってはどうか」と助言され『若松会』と名付けて発足させました。最初は卸町にある仮設住宅の集会所でイベントや物資の仕分けをしていましたが使えなくなり、早坂さんのアパートでするようにしました。しかし、たくさんの物資の搬入や人の出入りが度々あるなど、自立した集会所を持つのが望ましいということになり今のところに居を構えまることになりました。現在47世帯150名の会員数、一世帯月500円の会費で運営をしています。

それからはいろいろなボランティア団体と繋がりを持つことができ、また震災をテーマにした映画にも出演することになりました（出演料は口け弁のみ）。

孤立や引きこもりを防ぐため、週一回の茶話会や平日は手作りグループによる「小枝ちゃん」（写真）製作、週1回子供達に学習支援を行っています。毎月イベントも催されて、その様子はホームページ (<http://wkmt.net>) で見ることができます。東北ヘルプでも南吉成教会の会員で支援活動をしている鈴木真理さんを通じて新年



東北ヘルプのお弁当支援、新年会にて

会にお弁当支援、写真撮影、ビデオ撮影のサポートをいたしました。

しかし、その運営は楽なものではありません。家賃は3月まで支援を受けることができますが、4月以降について仙台市に応急仮設住宅の集会所の扱いにしてもらいたいと補助金を申請し担当者にも視察に来てもらいましたが、結局前例がないとのことを受けられませんでした。その後、ある会社から支援を受けられる見通しとなりましたが、光熱費や通信費などかかる経費を会費でまかなうのは難しい状況にあります（現在は東北ヘルプが負担しています）。また、早坂さんはイベントや集いに出来るだけ多く参加してもらうため時には5万円以上になる携帯通話費や移動手段のない会員さんのために車を出すなど自費でまかっています。「みんなが楽しみにしているから」とご自身の生活を犠牲にして働き疲れた様子を見せていました。

最後に「今何が一番ほしいですか」と尋ねると「日帰りでもいいからみんなで温泉に行きたい、それが私の夢なの」と自ら絆を作りそれを大切にしている姿が見えました。

今回お話を聞いて本当に不公平感があり目立つところ、目立たないところの差があるのを感じました。私たちにはすべてを満足させられることは出来ないと思います。しかし、聖書から学んだサマリヤ人のように、傷ついている人を助けたいと思っています。

青森りんご狩りツアー報告

元 東北ヘルプ保養担当職員
中島 恭子

皆様の御祈りと御協力により、今回の保養プログラムも無事に終わることができました。

これまでの保養支援も、皆様の御祈りに支えられたることと、深く感謝しつつ、報告をさせていただきます。

2012年11月3日~4日

目的・福島の子どもたちや御家族に、本場青森のりんご

の収穫体験をしてもらい、新鮮なりんごをたくさん食べて、心身共にリフレッシュしてもらいたい。

参加者・9家族30名(子ども20名、大人10名)他、同行スタッフ10名・(青森から5名と諸教会からの食事等の協力を頂き感謝でした。)

心配していた移動時間とお天気でしたが、3日の浅虫水族館のイルカショー、4日のりんご狩り収穫体験共に、天気も移動時間も最善に守られ、無事に行うことができました。東北で唯一のイルカショーですが、「待った甲斐があった!」という声も聞かれるほど、子どもも大人も大喜びで、イルカショーに夢中でした。「可愛いイルカに癒されました!」と感激する方々も多くいました。子ど



もたちには、海の生き物に触れられる「タッチコーナー」が、大人気でした。

浅虫水族館の館長さんは、これまでも福島の子どもたちの見学を受け入れておられ、今回もとても温かく迎えて下さいました。水族館の館長会議で、いわき市の水族館では、なかなか入館者が戻って来ない現状とのお話も伺いました。

青森クリスチャンセンターに移動後、夕食と入浴を済ませ、夜、子どもたちが休んでから食堂で、ゆっくりお父さんやお母さんとスタッフも一緒にくつろぐことができました。4日は、移動時に秋雨がぱらついたものの、収穫体験は、時折、青空も見え、皆さんとても喜んで収穫し、さ

っそくおいしい取れたての新鮮なりんごを食べ、感動していました。りんご農園の方から、りんごは、雨の後の方が、みずみずしくおいしいりんごが食べられると聞き、りんご狩りには最善のお天気だったと感謝する声も聞かれました。今回の参加者の中にリピーターの

方が、2家族おられました。初めての方々ははじめ皆さん、「楽しかった!」「また、青森に来たい!」という声を聞くことができ、感謝でした。(良かった点)・青森での保養のリピーター家族がいたので、皆さん、わからないことは、情報交換しながら行動でき、初

めての子どもたちや家族も、安心感があったようです。

・3日夜のティータイムは、子どもたちも程よく疲れてぐっすり眠り、スタッフが、保養ご家族の中に入って、ゆっくり傾聴できたことが、とてもよかったという感想でした。今回は、医師の吉松先生ご夫妻も参加して下さい、障害のお子さんを抱えた父母はじめ、いろいろ気軽に相談できてよかったです。

・食事の他に、食堂に置いたおやつがりんごが、あっという間に無くなり、大好評でした。・今回のプログラムは、イルカショーで心癒され、体に良いとされるりんごをたくさん食べ、アップルヒルで青森産の安心できる野菜や果物を、お母さん達が喜んでお買いものする姿が見られ、本当に楽しんで喜んで下さったことを嬉しく思いました。

・青森で保養された御家族の中で、避難先の教会に集うようになった方々がおられます。教会の牧師夫妻に連絡を取り、フォローさせて頂きました。子どもたちも、教会学校のプログラムに喜んで参加し、聖書のみことばも熱心に暗唱していることを、お母さんから伺いました。原発



事故の影響は、避難後も続き、子どもたちは円形脱毛症になり、他にも同じ症状を多く耳にするとのことでした。続いて、お祈りさせて頂きたいと思いました。

・福島と福島以外の保養地、今回は青森をつなぐ働きを、布山先生とこの者が協力してさせて頂いていますが、保養回数を重ねる毎に、お母さん方はじめ保養ご家族との信頼関係が深まり、保養の際も、安心して参加して下さっていると感じます。保養場所を広く開拓することも必要と同時に、いつも知っている人(同じ人)が、待っていてくれることも、不安を抱えている子どもたちや御家族にとっては、大きな安心感につながることを、今回参加されたお母さんと御家族、子どもたちの言動から、あらためて感じさせられました。

(検討事項)・移動時間が長いので、到着日の最終イルカショーに間に合うかどうか、気をもみました。共働き

の御家庭は、特に、土日祝日でないと出かけられない事情もあり、どうしても、高速道のラッシュが懸念されるので、検討事項かと思えます。

・今回大型バスを利用しましたが、青森クリスチャンセンターの玄関まで入れず、先生方の車でピストンをしたり、元気な方々には、徒歩でセンターまで移動して頂きましたが、雨が止んでいたのも、幸いでした。

「かっぱの湯」の温泉での入浴を楽しみにしていましたが、バスの乗り入れができないことや寒気のため、予定を変更してセンターでの入浴になりました。バスの乗り入れが玄関までできないため、雨天時の場合や入浴のことなど、今後の課題です。

・常勤の管理人や調理スタッフなどがないので、その都度、検討し準備する必要があります。*ACC理事会での検討もお願いしていますが、良い形で整えられればと願っています。

*ACC 青森クリスチャンセンター

☆今回は、ふくしま HOPE プロジェクト、東北ヘルプ、3.11あおもり教会ネットワークの連携支援として行われましたが、御協力下さった皆様に心から感謝致します。

☆皆様のお祈りと御協力を頂き、事故やトラブルも無く、今回最大のプログラムのイルカショー見学とりんご収穫体験を予定通り、恵みの内に行うことができました。ちょうど一年前の11月、東北ヘルプの秋山先生、三枝先生、川上先生が、青森に来られ、3.11あおもり教会ネットワークとの話し合いで、「福島の子供たちに、青森のりんごをいっぱい食べさせたい!」という御声があり、皆様のお祈りの内に、今回一年越しの願いがかなったことを心より嬉しく感謝でした。

本当にありがとうございました。

参加された方々からの御礼のメールと写真を添えて、報告とさせて頂きます。 感謝在主。

参加くださった方々の声

★今回の保養でも大変お世話になりました。楽しい思い出が沢山出来ました。リンゴが美味しくて美味しく美味しく感激しました。

★福島県内で買うのとは全く味が違うのでびっくりしました。毎日朝昼夜リンゴを食べては青森の話で盛り上がってます。実家にリンゴを送ったら、父が「世界一美味しいリンゴをありがとう。青森のリンゴは世界一だよ」と言って喜んでました。友達にお裾分けしたら「旦那が仕事柄、果物を沢山試食してるんだけど、その旦那が絶賛してたよ。本場は違うね」と喜んでくれました。

★青森に到着し、水族館で先生を見つけてうれしくて「恭子先生だ!」「おれぎゅっとしてもらいたい」と言い、盛り上がっていたらスタッフさんに「そんなに人気の先生なんですか?」と聞かれ「スッゴイ人気の先生なんですよ!」と答えちゃった。

★先生と沢山話せてうれしかったです。アップルヒルでお別れしたあと、息子がシクシク泣いていました。気持ちわかる。クリスチャンセンターで頂いた晩御飯が美味しくて、しかもあんなに沢山用意して頂いてありがたく思いました。せんべい汁最高です。子ども達が道中長くておやつを食べばなしだったので、せっかくのご馳走を残してしまい申し訳なく思いました。すみませんでした。今年三回目の青森も私たちの心も体も癒してくれました。今週も行ったりんご狩りしたいなあ。うちのパパはお土産のリンゴを食べるなり「わぁ新鮮、と大喜びで食べてました。今回も楽しい楽しい青森でした。ますます青森が好きになりました。恭子先生、寒くなって来たので体には気をつけて下さい。またお会い出来る日を楽しみにして頑張ります。



★雨が降り晴れてきれいな虹ができました。色がはっきりしていて根元志できれいな虹でした。なんかいいことあるかなと思っていたら、先生から手紙が届きました。そしてまた思い出にひたる私です。そういえば、青森に行った日もバスの中で虹をみました。虹がでた日はいいことあるのでウキウキします。

★私は、聖書の言葉好きです。聖書の言葉は心に響きます。

★先日、りんご狩りの前の先生のお話すてきなお話でした。ジーンと心にしみます。またすてきなお話聞かせてください。

日韓教会交流及び宣教協力増進のための韓国訪問旅行

2月のツアーは、驚くほどの反響を、韓国で呼んだそうです。その連絡を、ツアーの韓国側責任者であった金ミョンヒョク先生が下さいました。そして、韓国で報道された内容をコピーして、お送りくださいました。

日韓のキリストにある交流が、政治的な困難の中で、生まれていること、それは神様の恵みです。その証として、以下にご報告いたします。

(2013年4月15日 事務局長 川上直哉 記)

東日本大震災で福音の扉が開く

『国民日報』

2013年2月17日付記事

「韓国福音主義協議会(韓福協)2月発表会での日本牧師の告白“東日本大震災が起きた後、伝道の扉が開いています”。近藤愛哉(日本盛岡聖書バプテスト教会)牧師の告白である。彼の働き場である岩手県のクリスチャンの割合は0.05%。全国でもキリスト教信徒が一番少ない田舎の地域であるが2011年3月11日、東日本大震災が村を襲った後、奇跡的に福音の門が開いている。

去る15日「韓福協」の2月発表会がソウル・セムナン教会で開催された。東日本大震災2周年を前に、30名ほどの日本の牧会者たちが参加した。彼らは大震災発生後の現地宣教状況を報告し、その間献金や支援活動をしてくださった韓国の教会に感謝を表した。日・韓両国教会の交流や協力案に対し論議も続いた。

特に“沢山の国内外のクリスチャンたちが短期奉仕などの形式で地域を訪問し被害地域の住民たちへの助けを今まで続けている” “このような仕えの活動が現地の住民たちの伝道として実を結んでいる”と伝えた。日本福音同盟副理事長である中台孝雄牧師は“2年が過ぎた今でも災難現場の復興は中々進まない状態”であることを報告し、“特に福島原発事故で被害を受けた住民たちのために祈ってください”と要請した。



韓福協の国際委員長であるアンミンス平和教会牧師は“日・韓教会交流及び協力”を主題とした発題で“日・韓両国教会は東日本大震災の時のようにアジア地域の災難現場にも一緒に働きができる”と語り、“それだけではなく北朝鮮の住民の助けと北朝鮮の福音化の働きにもお互いに力を合わせる事が出来る”と話した。韓福協副会長である李ジョンイク新村バプテスト教会牧師は、日・韓教会の定期的な交流を強調した。

韓福協の役員である金サンボク牧師は歓迎辞を述べ、“韓国と日本の政治と歴史は私たちを分かれさせたのだがイエス・キリストは私たちを一つにした”と語り、両国の教会の持続的な交流と協力をお願いした。

“すっきりとした歴史の精算を目指し、日・韓教会の協力が必要” 韓福協・日本福音同盟、教会交流及び協力増進のための月例発表会開催

『アイクットNEWS』

2013年2月18日付記事

韓国と日本両国の教会がキリストの愛の中で一つになって協力する案に対して話し合う時間を持った。日本福音同盟の要請で開催された今回の発表会は、日本人牧会者及び韓福協関係者200余名が参席した中で進行した。

李ジョンイク牧師は“両国の基督教が二つの国を超えてアジアに行くためには過去史に対するすっきりした精算が必要である”と強調した。

彼はそれを元に、定期的な交流・交流パートナーシップの拡大・災難時の両国の協力などを提示した。

日・韓教会交流増進模索

定期的な交流を通じてパートナーシップが大切 韓国福音主義協議会

『基督韓国新聞』 2013年2月20日付記事

“韓福協と定期的な交流を通じて関係増進する事を提案” 指導者たちの円滑な協力を通じて効果的な宣教の働きを果たす。

日本教会と韓国教会が定期的な交流を通じてパートナーシップを持つ時、共同体を持つ事が出来る、との主張が、この協議会で提議された。韓国国内牧会者だけではなく、日本福音同盟の責任者及び関係者24名が参席したこの協議会において、両国の牧師たちはお互いに共感を分かち合った。

初めの発題者である中台牧師は東日本大災難のためになされた韓国教会の積極的な支援に対する感謝と現在日本の状況、福島原子力発電所爆発事故問題に対する長期的な祈祷の要請など三つを中心に発表した。

二番目の発題者である李ジョンイク牧師は、日韓基督教の間の活発な交流や増進のため具体的な代案として定例的な交流と交流のパートナーシップ、お互い難しい時助け合う、提案を提示した。

三番目の発題者である木田牧師は、原発後両極化になる現実を指摘して、教会が一つになった事を祝福として明かし、続けて福島教会の働きを覚え祈って欲しい、と要請した。

四番目の発題者である安ミンス牧師は、アジアの日本・韓国・中国3カ国の中先ず日本と韓国の教会指導者たちが定期的に集まりキリストの中で交際しアジア福音化のため協力の道を模索しなければならないと訴えた。

発表会前に捧げた礼拝には李ヨンフン牧師が“誠の弟子の道”について説教し、金ソン ヒョンとゼンビョングム牧師は日・韓教会の霊的覚醒と悔い改め運動のため、日・韓教会の交流と協力増進のためにお祈りをした。



登壇し訴える近藤愛哉牧師（左端）木田恵嗣牧師（右から2番目）

他にも記事が掲載されました

“韓国教会の関心と愛が大きな力になった”

『基督教聖潔新聞』 2013年2月19日付記事

韓福協、“日・韓教会交流・協力増進”発表

『DIGITAL聖潔』 2013年2月20日付記事

韓国福音協議会(韓福協)、“日・韓教会交流と協力増進”発表会 “世界宣教・災難など日・韓教会協力を”

『基督教改革新報』 2013年2月19日付記事

“日・韓教会交流、必ず実現出来るように”

『NEWS POWER NP』 2013年3月4日付記事



日韓宣教協力増進フォーラム(場所:セムナン教会)

韓国教会を訪問して

郡山バプテスト教会牧師
大田尾達三

今年2月14日から18日まで四泊五日の韓国訪問ツアーに参加する機会が与えられた。今回で七度目の訪韓になると記憶しているが、行く度に様々なことを感じ、教えられることが多い。

今回の参加に際して「謝辞を述べる・謝罪をする・福島（特に三春町）の現状報告をする」ことが私の個人的な目的であった。



写真ノッポン・トット・キャンソン教会

謝 辞

3・11大震災で私たちの教会も被害があり（会堂、建物は大丈夫だったが駐車場の土止めの擁壁が大きく傾き、倒壊寸前になった）擁壁修復工事をする必要がでた。これに対して、韓国の教会が被災した日本の教会のために祈り、貴い献金を送って下さったことに対してのお礼を述べることであった。

謝 罪

日本が1910年から敗戦までの36年間植民地政策をとり、韓国（朝鮮）の人々の人権を踏みにじたことに対する謝罪である。また、日本政府が正式に謝罪をしていないことで本当に申し訳ない気持ちがある。一日本人として、一キリスト者として、自分が与えられた機会でなすべきことをしたいと考えている。ドイツのヴァイツゼッカー大統領が敗戦から40年の時に「過去に目を閉ざす者は現在にも盲目となる」と言ったが、加害者であったという認識を持つと同時に、いつでも加害者になり得ることを自覚していなければならぬと思うからである。

現状報告

岩手県、宮城県の大震災による被災者は地震、津波によって家を失い又壊れたことによって仮設住宅や借り上げアパートといった仮の住居に住んでいる。一方、福島県の被災者は原発事故によって避難命令が出されて、故郷、家を離れて仮設、借り上げアパートに住んでいるという大きな違いがある。

チェルノブイリ事故からすれば、放射能汚染は問題ない、大丈夫という意見から、チェルノブイリよりもっと深刻な問題だ、県内にとどまらないほうが良いという意見と大きく分かれている。放射能の話をする事で家族に亀裂、分裂が起こっていると聞く。ご主人だけが残り、奥さんと子供たちは実家または親族の家に住むといった家庭が多くある。

三春には15ヶ所の仮設住宅があり、1ヶ所の世帯数は40～70戸位で合計約2000人の方々が仮設に住んでいる。彼らは東京電力から月々の保障がある。これが厄介な問題を起こしていること、避難期間が延びていて不透明な将来に不安を感じているので、祈りと心の支援の必要性を話した。

そして、三つの個人的な目的他に、この旅行の主催者側から課せられた任務があった。それは17日の教会（ノッポン・トット・キャンソン教会）の礼拝で説教をすることであった。日本からの牧師14人は17日に、ソウル市内だけでなく、近郊の教会の礼拝で説教、報告（東日本大震災で教会が流失、倒壊など）をするように割り当てられた。ある牧師は世界一大きい教会（ヨイド純福音教会）でご奉仕をした。私は礼拝で説教のご奉仕をする予定であったが、礼拝後にレストランに行き、そこで、20数名の長老たちの前で話す時が与えられた。準備した説教も話させて頂き、上記の三つの個人的な目的も達成できたので感謝で一杯であった。

その後、食事となった。韓国のクリスチャンは早朝から良く祈るが、驚くほど良く食べる。イエス様も社会の様々な階層の人々と食事をして交わりを持ったことが聖書に書かれている。私も感謝して韓国料理を味わった。

神様と、快く送り出してくれた教会の兄弟に感謝している。

11月相馬・南相馬震災支援プロジェクト報告

福島県キリスト教連絡会 相双地域担当牧師 後藤一子

2012年12月10日

会議報告

11月1日(木)クラッシュ・ジャパンとミーティングを、相馬キリスト福音教会にて開催した。参加者計8名にて以下の予定を確認した。

11月の予定

9日(金)恵泉教会の協力を得て、柚木仮設住宅にて、歌と民舞の会を開催。

30日(金)クラッシュ・ジャパンの協力を得て、北飯淵仮設住宅にて、リース作りを開催。

12月の予定

クリスマス会にて、クリスマスプレゼント(500人分)の配布を行う。

7日(金)大野台仮設住宅にて開催。

14日(金)小池長沼。柚木・北飯淵仮設にて開催。

9日(日)竹下静コンサート。

活動報告

1日(木)日本同盟基督教団亀田キリスト教会松下牧師夫妻と姉妹1名が相馬に来訪される。

2日(金)相馬教会葛西師、土地を訪ねる。

津浪災害地を見て回り柚木仮設住宅支援物資配付する。仮設住宅では籠作りをしていたので手伝う。



5日(月)午後*FCC報告会(須賀川市シオンの丘)に参加。

*FCC 福島県キリスト教連絡会

7日(水)柚木仮設住宅へ案内配布

9日(金)おはなカフェ開催

柚木仮設住宅にて、歌と民舞の会を開催する。仮設住宅からの参加者は29名、ボランティアが11名加わり、計40名で開催。

内容：横川姉によるギター賛美と仮設の方々の民舞が披露された。とりわけ、ふるさと相馬、おけさ節を仮設の方々は披露する場が与えられたと、喜ん

でくださった。葛西師がお手玉や「おはじき」を利用してゲームする。童心に返った気分を味わい楽しむことが出来た。ホッカイロ(30個入り)をプレゼントした。

10日(土)リース作りの打ち合わせ。

12月8日(土)の竹下静コンサートの打ち合わせ。

19日(金)「竹下静コンサート」の案内作成

24日(土)大野台第6仮設住宅へベドー路津子さんが用意したパンを届ける。

26日(月)教会にてパンの包装をし、北飯淵仮設、柚木仮設、一人暮らしの方々へ配布する。

28日(水)大野台第8仮設住宅へ催事の案内を配布。

30日(金)おはなカフェ開催

大野台第8仮設住宅(主に原発被災者が居住)にて、クリスマスリースを作成する。仮設住宅からの参加者は9名、ボランティアが9名加わり、計18名で開催。

一人のボランティア参加者が材料の全てを用意し指導してくださったことに感謝したい。手作り業の中で、津波のことも語り合う時を持った。リースについては、部材の接着がうまくゆかず困惑したが、皆個性的な作品を作り上げて、クリスマスを迎える備えとなることを喜んだ。作成が終わり、「お茶っこ」となった際、浪江町の状況を聞いた。当時空間線量率が最も高い(20 μ Sv/h以上)の家から避難してきているという。「はたしていつまでここに留まるのか、帰ることが出来るのか、わからない。この状態は辛いことだが仕方がないし、子供を守るためにはもう戻らないだろう」と話していた。みな、不安と悲哀を感じて、聞いてあげることしか出来ない自分たちだと思った。パンとホッカイロとプレゼントした。



「東北ヘルプ」関連者書籍の紹介

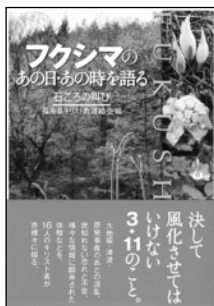
ニュースレター第三号をお送りいたします。皆様に被災地の様子をお知らせできれば幸いです。

東北ヘルプの働きは、いくつかの書籍になって結晶し始めました。以下にその御紹介を申し上げ、感謝を以て終わりの御挨拶に替えさせていただきたく存じます。

フクシマのあの日・あの時を語る

いのちのことば社 ¥1890

2012年10月8日、福島県キリスト教連絡会は「福島の震災を語る会」を開催されました（その詳細は、インターネットで「東北ヘルプ 不安に抗するために」と、検索くださいますと、ご覧いただけます）。東北ヘルプはその企画段階から一緒に考え、当日は司会と閉会礼拝を担当いたしました。その時語られた言葉を基に、この書籍は作られました。「あの日・あの時」の熱気が、ここに留められています。



ラジオ カフェ・デ・モンク

イー・ピックス社 ¥1200

東北ヘルプは、僧侶・神主等、他宗教の皆様と共に支援活動を展開しました。その働きは電話相談となり、電話相談を周知するためのラジオ番組の制作へと至ります。並行して行われてきた移動傾聴喫茶「Café de Monk」をラジオに載せ、震災後を生きるヒントを届けようと、ラジオ番組の企画は昇華し、日野原重明さんをはじめとする多くの方々のご出演を得ることができました（ラジオの音源は、インターネットで聞くことができます。「Café de Monk」と、検索ください）。その内容を、文字に起こしました。力ある本になっていると思います。



苦 縁

徳間書店 ¥1995

震災後、多くの宗教者が被災地で活躍しました。その一つ一つを丹念にたどってくださったジャーナリストの北村敏泰さんは、特に東北ヘルプと「Café de Monk」に関心を寄せ、深く取材してまとめてくださったのがこの本です。宗教者の公共的役割が再び立ち上がる、そんな新しい時代を感じさせる広がりがあり、この本から感じられます。



子どものいのちを守りたい

いのちのことば社 ¥840

2011年秋、東北ヘルプは、3・11青森教会ネットワークと共に、放射能に悩む皆様への短期保養支援プロジェクトを開始しました（詳細は、インターネットで「東北ヘルプ 青森」と、検索ください。記事12P参照）。このプロジェクトは展開し、「ふくしまHOPEプロジェクト」に結実して現在に至ります。この立ち上げからかかわってくださった中島恭子牧師が、その体験を記してくださいました。そこには、神様が新しく起こしてくださった業に触れる感動が伝わっています。



食卓から考える放射能のこと

いのちのことば社 ¥840

2011年12月、東北ヘルプは「食品放射能計測所」を立ち上げます。その職員として参加してくださった木村さんは、栄養士でした。木村さんは「栄養ニュース」を発刊し、計測所に訪れるお母さんたちの力になるうと志してくださいました。その志が、本になりました。放射能についての簡潔で奥深い解説も、「コラム」としてたくさん入っています。



東北ヘルプの働きは、皆様の祈りによって成り立ち、維持されています。これらの書籍は、その足跡です。心から感謝して、御紹介を申し上げる次第です。

2013年5月17日
事務局長 川上直哉 記

ご支援に感謝いたします

東北ヘルプ協賛会員

2013年5月 敬称略・順不同

【北海道】古賀清敬 【宮城県】小西望 佐藤光子 山田真理 鈴木桂子 高柳ユミ 後藤直子 西島るみ 細川麻紀子 木下裕子 吉原健雄 高橋麗子 荒木えみ子 木村れい子 齋藤泰子 菅基久子 戸枝慶 角田洋子 小林澄子 奈良靖 笠松絹子 金南植 菊地茂 金子純雄 一条好男 八巻正治 木村すげみ 戸枝正輝 杉山昭男 李貞妊 木村里江 渡辺ユリ 渡辺洋右 大友孝子 赤間国男 網干けい子 石井良子 中林撰 中林チヨ 齋藤泰子 我妻ヒサ子 佐藤悦江 松本芳哉 佐藤玲子 國安光 猪股信夫 加美山まき子 千葉あつ子 保科隆 佐藤文子 日本基督教団仙台北三番丁教会 中澤竜生 小西英子 島香美 荒井偉作・大越美穂 戸村三枝子 佐藤工 稲葉和世 【秋田県】崔長壽 【福島県】秋山胖 山本真理子 【茨城県】森井利夫 新津テイ子 山口由紀子 御子柴聖子 【栃木県】平山正道 平山昭子 福本知恵子 飯沼一浩 西田京子 福本光夫 福本正美 長嶋清 長嶋フツ 長嶋堅 長嶋三和 川上聖子 宮本由理子 鍛冶美奈子 飯沼淳子 関口清二 日本基督教団西那須野教会婦人会 長嶋耕 印南貞子 吉田いそよ 【埼玉県】櫻井良一 石垣幸子 有山教子 有山敏 森永美保 佐藤紀子 木村恭子 市川穂波 星野房子 石森美代 熊田なみ子 日本キリスト改革派三郷教会 持田浩次 吉田正治 北本福音キリスト教会 門脇敏一 桑原和子 日本キリスト改革派新所沢伝道所 谷川君平 黒潮茂雄 中村忠男 小池尚子 下山加寿子 西山悦子 【千葉県】谷村和枝 長谷川光孝 田北恵美子 山田直司 常石えり 坂東由紀子 長谷部裕子 渡辺亮 坂入三枝子 川上政孝 小西美津代 宇佐美三郎 杉谷理米香 松田君子 杉谷乃百合 市川愛 市川章子 瀬川亜美 中山紀志子 【東京都】松浦賢治 武田隆雄 塩田明子 田中千恵子 北村篤生 風間義信 辻順子 川島敬子 山崎光吾 藤村明 江尻美穂子 網中彰子 外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会(外協) 得永道子 キリストの栄光教会 石丸新 吉崎恵子 趙泳相 インマヌエル深川キリスト教会 島塚啓子 日本基督教団中渋谷教会 佐野結子 日本基督教団練馬二丁目伝道所 中家誠 橋本美知代 日本バプテスト連盟調布南キリスト教会 林起久子 【神奈川県】宮坂信章 本郷台キリスト教会 細谷和也 鈴木典子 塚本とし子 島田祥子 富井悠夫 富井美佐子 益田貴美子 佐藤俊宗 日本キリスト改革派西鎌倉教会 田原明子 牛島智子 【富山県】桶谷忠司 【山梨県】小山田恒也 小山田恵子 小山田拓也 小山田理伺 【長野県】伊藤春枝 倉倉寿明 【岐阜県】堀畑邦夫 堀畑鈴子 日本キリスト改革派太田教会 二宮創 二宮恵美子 長田初子 田村幸子 森朋子 【静岡県】加藤啓子 川上静子 【愛知県】神田宏子 岡美春 早崎貴文 山崎京子 川上善行 佐藤康光・由美 鈴木詔明・典子 江崎直美 須田静代 尾崎光 浅井みどり 河野トミ 森田喜之 名和真理子 原科浩 村瀬美恵子 伊藤まり子 森田千鶴子 加藤順子 服部博之 近藤直枝 大西東子 日本キリスト改革派尾張旭教会執事会 成川珠美 今泉智子 中島隆宏 中島祐子 山田啓子 服部錦之助・桃子 日本キリスト改革派豊明教会 上田徹 上田玲子 深谷みち子 落合みどり 小幡伸幸 伊藤啓子 【三重県】日本キリスト教会熊野伝道所 【京都府】中島廣子 難波實 梅澤慎一 【大阪府】笹辺美和子 藤崎秀雄 谷口浩美 中尾喜美子 日本基督教団天満教会 高野弘幸 アソソリ平野キリスト福音教会 日本アドベント・キリスト教団萱島キリスト教会 日本基督教団石橋教会 【兵庫県】荻原邦子 芦屋三条教会 飛田雄一 福原正枝 柳川芳子 岡陽子 岡憲一 末木宏昌 末木道子 柳田緑 日本同盟基督教団兵庫の荘めぐみ教会 見市徳子 柴田秀子 杉本知佐 射場弘子 森田浩子 大山信一 植月優子 太田恵子 阿部望 阿部典穂 阿部信 亀井公子 松永今日子 木下莊一・満枝 梓野真以 阿部俊 寺門聖子 畑雅洋 梶智城 和田祥子 磯部亜希子 石井里奈 森田頼子 大木知子 渡邊滋子 能見あすみ 小橋健蔵 小橋美代子 大工原則子 西牧夫 西あゆみ 日本キリスト改革派神港教会有志 高島潤 中野順子 石丸星香 佐野智弘・妙 熊谷郁子 衛藤静香 大橋文子 宇治加奈子 永井美香 高橋環 牧野信成 吉田美和子 小高美幸 戎美緒 石崎喜美子 横田登志美 佐野実香 吉田実 三好弥寿子 柴尾享 桃谷寛明 谷博美 山城尚子 岡崎岳・菜佳子 日本基督教団須磨教会 黒田博子 前堀操子 柳澤幸子 小井手佑圭 奥田喜亮 奥田雅子 大音光子 向來直美 横井美希 渡邊真未 飯田陽子 荻原徹 大城千鶴子 上坂寛子 篠田有記 藤原綾子 酒井佳子 柳あつ子 渡辺信 渡辺紀子 渡辺靖子 芦屋福音教会 小平牧生 平田幸也 平田真理 樋口忠幸 【島根県】倉吉復活教会 【岡山県】岡田真美子 津田文子 森分則子 日本ナザレン教団水島教会 白鳥良明 白鳥きよめ 谷茂子 高山正治 岡田純爾 岡田貴美 【広島県】松田基子 藤川満喜子 斉藤博美 谷岡久 橋本富子 伊賀上節子 緒方ひろ子 河上啓子 二井野美穂 二井野恵子 吉井和子 大木秀行 谷本洋子 日本キリスト改革派平和の君教会 山下朋彦・宣子 廿日出喜世子 毛利登志子 森川孝子 野村篤子 日本キリスト改革派東広島教会婦人会 中山仰 水戸晃 【徳島県】市原邦造 市原紀恵子 寺内利行 【高知県】柏原繁宜 吉良瑠美子 【福岡県】柴田公文 保田猛 濱地正枝 牟田美幸 中尾慎宏 【大分県】日本ナザレン教団別府教会

献金者・ご芳名 教会・団体・法人 (2013年1月～5月)

ウェスレアン・ホーリネス教団二俣川キリスト伝道所 鴻巣教会 鴨東教会 鳴子教会 高蔵寺教会 首都福音キリスト教会 頌栄教会 青山学院女子短期大学同窓会 長崎キリスト教協議会・カリッパ長崎大司教区東日本大震災二年の祈り 金沢八景教会 西那須野教会婦人会 西宮教会 蒔田教会 落合記念教会イスラエルツアー参加者一同 落合記念キリスト教会 荘内教会保育園 草加教会 茅ヶ崎平和教会 翠ヶ丘教会 練馬二丁目伝道所 経堂緑岡教会 篠崎キリスト教会 秩父神社 秋田教会 日曜学校 秋田教会 福山東教会 神戸聖愛教会 神戸イエス団教会里の会 社会福祉法人日本コイノニア福祉会 社会福祉法人名古屋キリスト教社会館 砂町教会 石橋教会 婦人部 石巻栄光教会 真言宗智山派大聖寺 町屋新生伝道所 玉出教会 灘教会 教会学校 涌谷教会 浪江ピースの会 浦和別所教会 池田教会 武庫の荘めぐみ教会 枚方くずは教会 松山城南高等学校 東光学園聖ルカ教会子ども礼拝 東京・関東キリスト者平和の会 札幌琴似教会 曹洞宗島田地蔵寺 日蓮宗実相寺 日本福音同盟 日本福音キリスト教会連合自由ヶ丘キリスト教会 日本山妙法寺寒行団 日本基督教団東京西南支区最寄牧師会 日本基督教団旭川伝道圏委員会 日本キリスト教協議会 日本イエス・キリスト教団 愛のいずみキリスト教会 徳島教会 平野キリスト福音教会 帯山聖書教会 市川三本松教会 岸和田聖書教会 岡本教会 山口信愛教会 尚綱学院高等学校 尚綱学院大学宗教部 宮城中央区役員会 学校法人酪農学園 学校法人横浜英和学院 学校法人フェリス学院 天白教会 天満教会 大森行政書士事務所 大分恵みキリスト教会 大分ゴスペルクワイアグレイス 多良木聖書教会 彦岐キリスト教会 土別教会 堅田教会 在日大韓基督教会・日本キリスト教会 国際基督教大学教会 四條町教会 名古屋キリスト教協議会 名古屋YWCA 各務原教会 古川幼稚園 千葉教会婦人部 北鈴蘭台教会 初雁教会 函館千歳教会 伊奈シャロームチャペル・キリスト教会 仙台青葉荘教会 仙台松陵教会 仙台東一番丁教会 仙台市民教会 仙台五橋教会 今治バプテスト教会 京都中央チャペル 京都ノーザンチャーチ北山教会 京滋キリスト者平和の会 上大岡教会 榊エコライフビジョン ヨハン広島キリスト教会 ヨハネスカントリーレス チャペルハーモニー コンスタン・ルイカンパウンド長老キリスト教会 インマヌエル長崎キリスト教会 インマヌエル糸満キリスト教会 みわ動物病院 とわの森三愛高等学校 せんげん台教会 婦人会 いわきサーズネット いずみ愛泉教会 子どもの教会 いずみ愛泉教会 オリブ会 あゆみ・平川和世・佳世子・佳子 「キリスト者として原発問題を考える集会」 UMCOR SAINT THOMAS CHURCH NCC-JEDRO 2013年市川キリスト教一致祈禱週間合同礼拝 神奈川バプテスト連合女性会 地域開発みちの会 北鈴蘭台教会 久里浜教会 3.11青森教会ネットワーク

献金者・ご芳名 個人 (2013年1月～5月)

高田みえ 高橋原 阿部頌栄 阿部文彦 長嶋清 金城幸政 酒井忍 酒井徳次郎 遠藤優子 越智伸子 赤間国男 谷山洋三 西郷洋子 萩野教子 若松淑 篠田澄子 笠松絹子 田中郁子 渡辺基子 浦川肇 沼里理恵 河野昌子 櫻井一明 橋浦雅子 樋口昭男 森山信三 梶本みどり 柏原繁宜 松村道雄 李貞妊 李明信 齋藤泰子 愛野ルツ子 御子柴聖子 張江誠 常世田よしえ 布山真理子 工藤ますみ 川島敬子 川上静子 川上直哉 山田昭子 山田文禎 山田きみえ 小野千賀子 小山静子 小山田恒也 宮本和武 姜有子 太田一男・結子 大西美恵子 外池めぐみ 外池いずみ 塩田瑞代 北村篤生 出口玲子 八木宏仁 保科隆 依田美都恵 佐藤鉄郎・トモ子 佐藤悦江 佐藤工 佐藤久美子 佐藤 伊藤貴美子 伊藤悟 二村英幸 中田一夫 中澤竜生 中川辰也・みち子 中島俊典 中山悦子 上内鏡子 三枝千洋 三宅維知子 Robert Cushing・富田成美 山田文禎 石河秀夫 土橋肇子 横山やよい 倉石昇 匿名7名

支援金
献金の受付口座

郵便振替
02200-3-126381
一般財団法人 東北ディアコニア

他金融機関からの振り込み用口座番号
ゆうちょ銀行 二二九(ニニキュウ)店
当座 0126381